

## 第七回日独教会協議会（2016年4月22日から29日）最終声明

### (1) 主題 いま、宗教改革を生きる - 耳を傾け 共に歩む -

私たちは礼拝、講演、各教派訪問に加えて、さまざまな同時並行プログラムを通じて出会いと真摯な協議を行い、スイスとドイツと日本では、宗教改革後の教派が今日に至るまで隣人奉仕の神学が危急の課題であることが明らかになった。500年前の宗教改革では視点の変換があり、そこで確認されたことは、隣人のために自分の身を献げることに寄与するのは、みずからの救いの獲得への努力ではなく、隣人愛つまり、人への神の愛に対する感謝だということだ。それにより教会のアイデンティティーは変わった。「プロテスタント信仰は自らのところには留まることはなく、この世の只中で働く。」（ケースマン講演より）。

教会の隣人奉仕の行為の際に、視点転換の必要があることが、この協議会を通じてのテーマとなった。この度の協議会で経験したことに基づき、以下七点を共に確認する。

#### 1 公開講演会でのパネルディスカッション

日本では昔も今も教会の自己理解が、— 社会活動をする教会と宣教をする教会のどちらであるべきか — に分かれていることが報告された。このような論争は克服されなければならないし、克服しうる。両者の間の生き生きとした対話が必要であるし、それには聖書神学的熟考が基礎として必要だ。

#### 2 いわき市、房総半島研修旅行

研修旅行でキリスト教の背景をもたない市民の隣人奉仕活動に出会った。そして彼らの活動に日本基督教団と日本バプテスト同盟に属する地元教会が門戸を解放し、彼らの活動を支援していることを学んだ。これは講演会後の質疑応答でキリスト者の活動は、常にキリスト教的な活動として標榜されなければならないのかと議論されたことに繋がる。教会とキリスト教団体は、社会の要請を真に受け、自分たちとは異なる動機から活動している人々と共に活動することが必要だと理解した。キリスト者は他の市民団体との協働と対話によって、私たち自身を知ることができ、「私たちとは何者なのか」と問い、自らを変えることができる。

#### 3 京都崇仁・東九条地区訪問

京都「希望の家」では隣人奉仕を実践する企画に出会った。そこでは、社会の矛盾を身に引き受けている人々が、どうしたら社会変革の過程の参加者として興味を起こしてもらえるか模索している。必要不可欠なことは、隣人奉仕活動が同じ高さの目線で行われ、社会の矛盾にさらされている人々や他文化の背景にある者たちが自分の観点を持ち込むことができ、彼らとの参加協力の形が見出され得るように教会や隣人奉仕活動が為されることだ。＜文化は日本では人種や国籍によるものだと理解されるが、障害を持って生きることなども一つの文化ではないか。＞

#### 4 東京研修

都内の研修で日本には部落とよばれる迫害を受けている少数者がおり、社会的地位への恥意識から彼らの貧困が隠されていることを知った。必要不可欠なことは、教会の隣人奉仕活動が、これら姿の見えない人々へ特別に眼を向け、彼らの視点を認識し、力を入れ弁護を引き受けて添うことだ。

## 5 フクシマ研修旅行

いわき市周辺を見学し学んだことは、政治が住民の不安に向き合うのではなく、彼らの不安の根拠を意識的に隠蔽していることだ。宗教改革を経た教会としての課題は、こうした政治の傾向に抵抗し、当事者と共に透明性のある政治のために活動することだ。

## 6 三箇所でのコンサートおよびワークショップ

ローマカトリック教会の聖歌隊も含む各教派の聖歌隊が、共に詩篇の「ことば」と「音」により主を讃美するエキュメニカルコンサートを体験した。聖歌隊員の中にはキリスト者ではないものもいた。音楽は人々を結びつけ、その向かうところへといざなう。

## 7 スイス・ドイツ・日本

スイスとドイツと日本からの参加者が共に集ったことは、協議会を更なる豊かなものにした。この経験から、今後は三者一緒に協議会を開き、この協議会の名称を「日・独・スイス教会協議会」と変更することを提案する。

**(2) 会議の場所:** 在日本韓国 YMCA、東京と周辺の教会：日本バプテスト浦和教会、日本聖公会・聖ペテロ阿佐ヶ谷教会、日本キリスト教会柏木教会、日本福音ルーテル東京教会、日本基督教団西千葉教会、および京都の在日大韓基督教会京都南部教会、聖グレゴリオの家。いわき市、大熊町、富岡町、檜葉町、広野町。日本基督教団常磐教会、福島第一聖書バプテスト教会、NPO「たらちね」、ミッドナイトミッション望みの門「のぞみ会」、かにた婦人の村。

### (3) 参加者

**1 訪問者:** スイスプロテスタント連盟から：シモン・ホーフシュテッター（ベルン大学・スイスプロテスタント連盟ディアコニア部門）、クリストフ・ヴェーバー＝ベルク（アールガウ改革派州教会役員会議長）。ドイツ福音主義教会から：マルゴット・ケースマン（宗教改革記念特任大使）、ウルリッヒ・リリエ（ディアコニア部門議長）、ヒッレ・リヒャーズ（共同体形成担当職）、クラウディア・オスタレク（東アジア、オーストラリア、太平洋、北アメリカ担当幹事）、カントゥス・カヌム（ドイツ改革教会聖歌隊、指揮はエッツアルト・ヘアリン牧師）

**2 主催者:** 日本キリスト教協議会から議長・小橋孝一、副議長・渡部信、総幹事・網中彰子、ドイツ委員会（委員長・菊地純子、小田部進一、李明生、成松三千子、岡田 仁）、実務委員（日本キリスト教会大会渉外委員会：大石周平、藤守義光およびファンハウヴェリンゲン弥生）、シュトゥワード（多田哲、藤守麗、小田部恵流川）、ドイツ語福音教会（東京）

**3 その他の参加者名簿:** 58名の公開プログラム参加者名は正式記録に記載してありますが、不特定多数への公開はひかえさせていただきます。なおドイツ語版には掲載されません。

**4 記名なしの音楽企画参加者:** 24日（日）チャリティーコンサート（聖グレゴリオの家）30名、ワークショップ（聖グレゴリオの家）27日36名、28日35名。29日チャリティーコンサート（かにた婦人の村）170名。

プログラム全般に、本協議会報告書を作成予定の「いのちのことば社」社員が同行した。

**5 共催者：**ドイツ福音主義宣教局、聖グレゴリオの家、かいた婦人の村、ミッドナイトミッション 望みの門、在日本韓国 YMCA、日本聖書協会、富坂キリスト教センター、ガルニエオルガン工房、聖グレゴリオの家聖歌隊、JC コーナーストーン、シャローム、白浜コーラスマリンブルー、ふきや合唱団、千葉由美氏を含む市民活動団体ママベク、明石義信牧師、佐藤文則氏の協力には特別の感謝を表明したい。

**(4) 全プログラム：**同時に二カ所、あるいはそれ以上に別れて催されたプログラムもあった。

4月22日(金)18時 開会礼拝(菊地、ファンハウヴェリンゲン、藤守(麗)、リリエ)

19時 交わりの時

4月23日(土)10時-12時 講演(ケースマン、リリエ、リヒャーズ)

13時-15時 講演(ヴェーバーベルク、ホーフシュテッター)

15時30分—16時 パネルディスカッション(講演者、戒能信生、山本光一)

16時半-18時 エキュメニカルチャリティーコンサート

(聖グレゴリオの家聖歌隊、カントゥスカヌム、JC コーナーストーン)

4月24日(日)七つの教会での礼拝と講演会(訪問者全員)

15時 エキュメニカルチャリティーコンサート

(聖グレゴリオの家聖歌隊、カントゥスカヌム)

4月25日(月)09時 東京現地研修(訪問者5名)および京都「希望の家」見学(訪問者1名)

16時30分 東京ドイツ語教会訪問(訪問者全員、ドイツ委員会、実務委員会)

19時 ケースマン氏講演(東京ドイツ語教会)(同上)

20時 交わりの時(同上)

4月26日(火)—27日(水) フクシマ研修旅行(訪問者5名、ドイツ委員会)

4月27日(水) 19時 最終声明についての協議

21時 晩禱

4月27日(水)—28日(木) ワークショップ(カントゥスカヌム、聖グレゴリオの家)

4月28日(木) 房総半島研修旅行:望みの門、かいた婦人の村

4月29日(金) 9時 最終声明採択

10時 閉会礼拝・聖餐式(李、オスタレク)

15時30分 チャリティーコンサート

(カントゥスカヌム、シャローム、白浜コーラスマリンブルー、ふきや合唱団)